

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400710
法人名	社会福祉法人ひまわり福祉会
事業所名	グループホームひだまり わびすけユニット
所在地	島根県出雲市神西中町2452-1
自己評価作成日	令和5年11月30日
評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32](https://index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	令和5年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との連携がとれており、往診時や必要時に適切な医療が受けられる。各入居者が穏やかに過ごせるように、空間作り配慮している。季節感を感じられるように心がけている。

できることに対してはできるように支援し、したいことに対してはなるべく気持ちに沿えるよう支援している。

家族との面会、電話等やり取りの継続を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は情報共有し協力して利用者が穏やかに生き生きと暮らせるように取り組んでいる。昨年から研修の見直しで法人と一緒に「防災・認知症・事故防止・虐待・感染症・褥瘡」テーマで月2回平日の日中に園内研修を実施し、職員は年1回は一日研修に参加し専門性を高めケアに反映している。ひだまり通信やホームページの更新は事業所の取り組みや利用者の毎日の何気ない日常の様子を紹介している。自治会加入や地区行事への参加、法人たよりの新聞折込で地域とのつながりを継続している。コロナ感染による業務対応で大変な時期もあったが学生実習や外国人介護職の受け入れなど積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はできていない。法人理念を共有し、実践につなげるようにしている。	法人理念や運営指針に基づいて意見を出し合い利用者主体のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域とのつながりが持てない状況にある。地域の文化祭に作品を展示した。学生の実習の受け入れは継続して行えている。	敬老会に歌・踊りのボランティア来訪があり家族も参加し利用者と一緒に楽しんでいる。地域の商店から定期的に移動販売車が来て利用者は好みのものを買い求めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方々との交流は難しいが、運営推進会議において、認知症の方の支援について話す機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スライド等を利用しながら、日ごろの様子を報告している。そこでの意見はサービス向上に活かされている。	会議ではスライドを使い入居者状況や行事報告、研修内容、コロナ感染対策など報告し意見、要望を聞きサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、連絡、情報提供等行い、協力関係を築くように努めている。	運営推進会議や報告などで事業所の現状を伝え協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。不必要な施錠は行わず、見守りによるケアを行っている。	利用者が玄関先に向かって歩いていてもしばらくは見守り様子を見て声掛けをするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事案が明らかになり、今まで以上に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に携わる機会はほとんどない。課長や係長により十分な説明が行われていると認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談受付フォームにより、意見をいただくようになっている。面会時などに家族からの意見を聞くことに努め、反映させている。	家族の来訪時や運営推進会議へ参加してもらい意見や要望を聞くことに努めている。「ひだまり通信」で日頃の様子を伝えたり、玄関に意見箱の設置やQRコードの掲示をして情報交換の工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	公の場で意見を出す機会はほとんどないが、互いに意見が言える雰囲気はある。	日頃から意見や要望を言いやすい職場環境づくりをしている。年1回の個人面談もあり出された意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めてもらっていると感じるが、実際には難しい面もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修の場が少なく、研修を受ける機会があまりない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流をする場が現在ほとんどない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定後、早く情報収集し、それを共有している。受け入れる準備を行い関係作りを円滑に行えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に、課長、係長が対応している。その情報を共有し、支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課長、係長が対応している。多くの情報を得ることにより、支援の見極め、サービス利用を提案するなど対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等行える方とは一緒に行い、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に生活の様子等、情報を提供しているが、面会に来られない家族とは関係を築く働きかけが少ない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人はほとんど来られない。電話や、文通が継続できるよう支援している。場所に関しては、個別に対応しきれていない。	家族や知人との電話や手紙のやりとりができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の入れ替わりも多く、馴染むのにも時間がかかっている。お互いに良い関係を築くうえで、空間の工夫を意識して行っている。座る位置にも配慮している。周りの方を意識して下さる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内で移動された方の情報は気にかけて収集している。亡くなられての退去の方とは、その後の関わりはほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、意向の把握に努めて対応している。自分から発することが困難な方には、気づいたことを記録するなどし、把握するように努めている。	日々の会話や表情で利用者の気持ちに寄り添い、時には立ち止まって「私だったらどうするかな」と考えて思いをくみとれるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書に加えて、家族からの聞き取りによりある程度把握している。気になることがあれば、家族に聞くなどし、安心して落ち着く環境を提供するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じたケアを提供できるように、都度話し合い対応している。ユニット会議で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に連絡を取り、要望を聞き、介護計画に反映させている。	介護計画作成担当者を中心に利用者、家族からの要望、意見を取り入れ現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、早急に情報共有すべき内容は、口頭で伝えるなどし、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応する姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に1度、移動販売車が来園し、買い物を楽しんでもらっている。散髪は訪問の美容師を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携はとれており、適切な医療が受けられている。気になることがあれば、連絡し、対応してもらっている。	希望するかかりつけ医を継続し受診や訪問診療、往診を受けている。病院受診時は職員が同行し必要な情報提供を行ない、家族とも連絡を取り対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人一人の健康状態を把握し、適切な受診や看護が行われている。気づいたことは、看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に、係長、看護職員が対応している。入退院の際の情報交換はできており、入院中も必要であれば、都度連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	課長、係長により、重度化や終末期についても話し合いは行われている。終末期においては、どこでどのように過ごしてもらうのか家族から意向を聞き、決まった方針で支援が行えるよう努めている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の取り組みを説明し意向を確認している。必要時には関係者と連携し情報共有しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で入職時に行っているが、定期的に行えていないので、実践力として身についていないと感じる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に夜間想定防災訓練を2回、自然災害訓練を1回実施している。自家発電装置がある。	防災訓練、自然災害訓練などを行い全職員が避難方法、場所の確認を行っている。隣接する他の部署と協力体制を取っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際は、必ずノックするようにしている。入浴、排泄介助の時はプライバシーを損ねないように心掛け対応している。	排泄介助の仕方や言葉がけに職員同士が話し合い配慮して対応している。失礼な言葉かけや態度にならないよう注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できるよう支援し、希望に応じるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿えることはなるべくそのように支援している。個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれをするまでの支援はできていないが、清潔感のある身だしなみに心掛け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決まっているので、月に1度のお好みメニューで入居者の意見を聞きながら献立を立て提供している。テーブル拭きや下準備を手伝ってもらうこともある。	食事が楽しみなものになるようお好みメニューの日を設けている。急遽、忘年会と称して「鍋」になったが利用者の目の前で調理することで皆で鍋を囲み会話が広がり楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、また水分摂取量には気を付けている。ゼリーなどで水分摂取を促すこともある。食器や食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声掛けをし、自分で行ってもらっている。その他の方は、少なくとも就寝前には口腔ケアを行うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日を通して排泄のタイミングを把握し、トイレ誘導や使用するパット等の工夫をしている。おむつ着用の方でも、希望があればポータブルトイレに案内するなど、持てる力を活かした支援に努めている。	排泄表でチェックし利用者一人ひとりに応じた対応をしている。パットの工夫で夜間の睡眠を妨げないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を見ながら、服薬によりコントロールしている。水分摂取にも、イオンゼリーを使用するなど工夫している。運動への働きかけは具体的には行えていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本的には決まっており、その時間に行くことが多いが、その時に希望されなければ、時間をずらす、日をずらすなどして対応している。同性介助希望の方には適切に対応している。	利用者の体調に合わせて入浴時間を柔軟に対応している。入浴を好まない利用者には時間をずらしたり日にちを変更するなど個々に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じ、休息したい場所で行ってもらえている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット、服薬介助の際は、職員二人で行い、服薬時は名前や日付の復唱を行い間違いのないよう支援している。薬の変更が生じた時は、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物量、掃除など、できることはやってもらうよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントとしてドライブや近場の遠足は行っているが、個別の外出支援は行えていない。	季節や気候に合わせて花見ドライブや散歩に出かけている。数年ぶりの花火大会は事業所からの観賞だったが職員も一緒に楽しむことができた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持されている方は1名おられるが、生活するうえで使うお金はこちらで管理している。週1回の移動スーパーでの買い物支援をし、楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があるときは応じている。手紙のやり取りができるよう住所の確認等行い、支援している。携帯電話を持ち、使用しておられる方もあるが、操作が分からなくなられた時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう飾り付けに工夫している。空調の調節したり、カーテンの開閉をしたりして、居心地よく過ごす環境作りに努めている。	明るくゆったりと過ごせる空間で、ソファやテーブルがあり自由にテレビを見たり会話ができるようになっている。畳の間には大きな炬燵があり職員も一緒に寛ぎゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格や生活の流れ、その時の心理状態を把握しながら、その時に応じた居場所作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物、馴染みのある物を持参してもらい、配置している。写真を飾るなどして、家族を近くに感じてもらうように工夫している。	居室は大きな窓から明かりが入りベットや炬燵、筆筒などを置いても十分な広さがあり、家族も一緒に寛げる。それぞれ馴染みのある物が置かれその人に合わせた居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での動線を意識して物を配置し、安全に過ごせるようにしている。		